

Program

G. ロッシーニ： Gioachino Rossini：	歌劇《セビリアの理髪師》より Il barbiere di Siviglia 序曲 「今の歌声は」☆ 「陰口はそよ風のように」◆	Overture “Una voce poco fa” (Rosina) “La calunnia” (Basilio)
C. グノー： Charles Gounod：	歌劇《ロメオとジュリエット》より「ああ、私は夢に生きたい」☆ Roméo et Juliette	“Ah ! Je veux vivre” (Juliette)
G. ヴェルディ： Giuseppe Verdi：	歌劇《ドン・カルロ》より Don Carlo 「ひとり寂しく眠ろう」◆ バレエ音楽	“Elle ne m’aime pas!” (Philippe II) Presto at the end of the Ballet
V. ベッリーニ： Vincenzo Bellini：	歌劇《カプレーティとモンテッキ》より「ああ、幾たびか」☆ I Capuleti e i Montecchi	“Oh! quante volte” (Giulietta)
V. ベッリーニ： Vincenzo Bellini：	歌劇《清教徒》より「おお、愛する叔父さま、私の第二のお父さま」☆◆ I Puritani	“O amato zio, o mio secondo padre” (Elvira / Giorgio)
.....		
R. ワーグナー： Richard Wagner：	歌劇《さまよえるオランダ人》より Der Fliegende Holländer 序曲 「我が子よ、いらっしゃいをお言い」◆	Overture “Mögst Du, mein Kind” (Daland)
P. マスカーニ： Pietro Mascagni：	歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》より 間奏曲 Cavalleria Rusticana	Intermezzo
G. マイヤーベーア： Giacomo Meyerbeer：	歌劇《ディノーラ》より「軽やかな影」(影の歌) ☆ Dinorah oh Le Pardon de Ploërmel	“Ombre légère” (Dinorah)
A. ポンキエッリ： Amilcare Ponchielli：	歌劇《ジョコンダ》より La Gioconda バレエ曲<時の踊り> 「彼女は死なねばならぬ」◆	“Danze delle Ore” “Sì, morir ella de'!” (Alvise Badoero)
G. ヴェルディ： Giuseppe Verdi：	歌劇《椿姫》より「不思議だわ～ああ、そはかの人か～花から花へ」☆ La Traviata	“È strano... ah, fors'è lui...sempre libera” (Violetta)

☆ ディアナ・ダムラウ(ソプラノ) Diana Damrau, Soprano ◆ ニコラ・テスト(バス・バリトン) Nicolas Testé, Bass-bariton
パーヴェル・バレフ(指揮) Pavel Baleff, Conductor 東京フィルハーモニー交響楽団(管弦楽) Tokyo Philharmonic Orchestra

＊ 当初の予定からプログラムの一部に変更がございます。何卒ご了承下さい。 ＊ 客席内での写真撮影および録音は禁止されています。
The photographing or sound recording of this concert or possession of any device for such photography or sound recording is prohibited.

Profile

ディアナ・ダムラウ(ソプラノ)

Diana Damrau, Soprano



© Jürgen Frank

2005年にデビューを果たしたメトロポリタン歌劇場は、自身の数々の持ち役を演じた歌劇場であり、それらの公演はHD映像で世界中の映画館に配信されている。また、《魔笛》のパミーナと夜の女王という2つの役を、公演期間中の別々の公演で演じた、メトロポリタン歌劇場史上初の歌手となった。

また、ミラノ・スカラ座では、2004年の新スカラ座柿落し公演、ヴェルディ生誕200周年記念公演と二度のシーズン開幕公演に出演している。

現代作品にも多く出演し、イアン・ベル作曲のオペラ《娼婦一代記》やロリン・マゼール作曲の《1984年》など、彼女のために特別に書かれた役を演じている。

ワーナー／エラート(旧EMI／ヴァージン・クラシックス)と専属契約を結び、モーツァルトやサリエリなどを収録したCD『ブラヴァーラ・アリア集』でCDデビューを果たしてからは、R.シュトラウスの歌曲集『ボエジー』(2011年エコー・クラシック賞受賞)、リスト歌曲集、オペレッタ、映画、ミュージカルの名曲集『フォーエヴァー』(2014年エコー・クラシック賞受賞)などをリリースする他、様々なオペラ(全曲)を収録したCDやDVDに登場している。

また、マイヤーベーア作品に捧げられたCD『グランド・オペラ』のリリースに合わせ、2017年5月にヨーロッパ・ツアーを行った。11月にもシンガポール、上海、東京、ソウル、台北、北京を回るアジア・ツアーを行う。2018年2月には、テノールのヨナス・カウフマン、ピアニストのヘルムート・ドイチュの共演でヨーロッパ・ツアーを行う予定。

2017／18年シーズンの主な活動は、バイエルン国立歌劇場での《ランメルモールのルチア》のタイトルロールと《椿姫》のヴィオレッタの再演、チューリヒ歌劇場では初役となる《マリア・スチュアルダ》のタイトルロールを演じ、その後ベルリン・ドイツ・オペラでも同役を歌う。

2017年9月には、ロイヤル・コンサートヘボウ管の新シーズンのオープニング公演でモーツァルトのアリア集を歌い注目を集めた。ベルリン国立歌劇場改修後のガラ公演では、バレンボイム指揮シュターツカペレ・ベルリンの共演でベートーヴェンの第九交響曲、ティーレマン指揮シュターツカペレ・ドレスデンとは、クリスマス・コンサートに出演予定。BBCプロムスにてペトレンコ指揮ロイヤル・リバプール・フィルと共演する、イアン・ベルの《コロラトゥーラ・ソプラノのための協奏曲》も注目を集めている。

www.diana-damrau.com

General Management Concerts, Tours & Media of Diana Damrau:
CCM Classic Concerts Management, www.ccm-international.de
Diana Damrau records exclusively for Erato/Warner Classics

Profile



© Jiyang Chen

ニコラ・テスト (バス・バリトン)

Nicolas Testé, Bass-bariton

フランス出身。パリでピアノ、バスーン、音楽史を学んだ後、パリ国立オペラの歌手養成コース「アトリエ・リリック」で研鑽を積み、1998年には、声楽コンクール「新しい声」で第2位を受賞した。

メトロポリタン歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ロサンゼルス・オペラ、サンフランシスコ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、パリ国立オペラ、サン・カルロ劇場、ジュネーヴ大劇場、フェニーチェ劇場など多くの名高いオペラハウスや、グラインドボーン音楽祭、オランジュ音楽祭などの音楽祭に定期的に出演している。

レパートリーには、《アウリスのイフィゲニア》のアガメムノン、《ロメオとジュリエット》のローラン神父、《マノン》のデ・グリユー、《ハムレット》のクロード、《イル・トロヴァトーレ》のフェルランド、《魔笛》のザラストロ、《カストールとポリュックス》のユピテル、《ファウスト》のメフィストフェレス、《ホフマン物語》の4人の悪役、《セビリアの理髪師》のバジリオなど幅広く含まれる。

2015／16年シーズンには、《ラ・ボエーム》のコレリーネでバイエルン国立歌劇場、《ランメルモールのルチア》のライモンドでサンフランシスコ歌劇場にデビューした。さらに、新演出によるビゼーの《真珠採り》のヌーラバットでメトロポリタン歌劇場に出演した。なお、この公演はメトロポリタン歌劇場での初演であった。その他、ベルリン・ドイツ・オペラで《ランメルモールのルチア》のライモンド、マドリッド・レアル劇場で《清教徒》のジョルジオ、オランジュ音楽祭で《椿姫》のグレンヴィル医師などを演じている。

2016／17年シーズンには、《ラ・ボエーム》のコレリーネと《ランメルモールのルチア》のライモンドでバイエルン国立歌劇場に再び登場。さらに、メトロポリタン歌劇場では《カルメン》のスニガを、パリ国立オペラでは《サムソンとデリラ》のアビメレクを、ロサンゼルス・オペラでは《ホフマン物語》の4人の悪役を演じる。

これまでに多くのオペラ公演に出演した他に、国際的に名高いオーケストラとも定期的に共演している。2017年春には、ソプラノのディアナ・ダムラウとの共演による南アメリカ・ツアーで注目を集めた。このツアーで、同年ブエノスアイレスのコロン劇場にデビューした。この他にも、ブラジルのサンパウロ、メキシコのメキシコ・シティーとティファナ、チリのフルティジャールで公演を行った。これに続き、5月、6月には、『ベルカント・ドラマテコ』と題したツアーを行い、このツアーでは、ディアナ・ダムラウおよびプラハ・フィルハーモニアとの共演により、マイヤーベーア、マスネ、ヴェルディのアリアを、バーデン＝バーデン祝祭劇場、ハンブルク・エルブフィルハーモニー、ドレスデン国立歌劇場、ミュンヘン・フィルハーモニー、プラハ・ルドルフィヌム、ICEクラクフ・コングレス・センターといったヨーロッパの主要ホールで歌った。同年秋には、上海シンフォニー・ホール、東京のサントリーホール、韓国のソウルなどアジア各地で公演を行う。

Profile

パーヴェル・バレフ (指揮者)

Pavel Baleff, Conductor



© Joerg Bongartz

2007年より、パーヴェル・バレフは、ドイツで最も伝統のあるオーケストラの一つ、バーデン＝バーデン・フィルハーモニーの首席指揮者を務めている。幅広いレパートリーを誇るバレフは、オペラ、バレエ、およびコンサートの指揮者として、チューリッヒ歌劇場、ドレスデン国立歌劇場、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス、ハンブルク国立歌劇場、モスクワ・ボリショイ劇場などで活躍している。

バレフは、アンネ＝ゾフィー・ムター、アンナ・ネトレブコ、クラッシミラ・ストヤノヴァ、ディアナ・ダムラウ、エディタ・グルベローヴァ、ヴェッセルリーナ・カサロヴァ、ラモン・バルガス、トーマス・ハンプソン、ニコラ・テスト、ピョートル・ベツァーラ、ルカ・ピサローニといった世界的に有名なアーティストと共演を重ねている。2012年には、ミュンヘン放送管とクラッシミラ・ストヤノヴァとの共演で録音した『スラヴ・オペラ・アリア集』にてドイツ・レコード批評家賞と国際クラシック音楽賞、また、2014年にはオルフェオ・レーベルからリリースされたCD『ヴェルディ・オペラ・アリア集』でドイツ・レコード批評家賞を受賞した。2015年には、ヴェッセルリーナ・カサロヴァとの共演で、『ロシア・オペラ・アリア集』をリリース。ソフィアでは、ブルガリア国立歌劇場での《ニーベルングの指環》により、ブルガリアの年間最優秀指揮者に選ばれた。

また、「カール・マリア・フォン・ウェーバー・コンクール」では第1位に輝き、「ヘルベルト・フォン・カラヤン財団」から賞を授与された。2014／15年シーズンには、チューリッヒ歌劇場で《レオンスとレーナ》を、モンペリエ歌劇場でバルトークの《青ひげ公の城》を指揮した。

2016年12月に、ドニゼッティの《愛の妙薬》でウィーン国立歌劇場にデビューを果たした。2017／18年シーズンには、チューリッヒ歌劇場で客演指揮者として、ラヴェルの《スペインの時》や《子供と魔法》などのオペラやバレエ《白鳥の湖》を、2018／19年シーズンには、リモージュ歌劇場で《死の都》を指揮する予定である。

東京フィルハーモニー交響楽団

Tokyo Philharmonic Orchestra

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラで2011年に日本のオーケストラとして最初の100周年を迎えた。約130名のメンバーを擁し、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せ持っている。名誉音楽監督はチョン・ミョンフン、首席指揮者はアンドレア・パッティストーニ、特別客演指揮者はミハイル・プレトニョフ。Bunkamura オーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「平日／休日の午後のコンサート」を中心とする自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』、『NHKニューイヤーオペラコンサート』、『題名のない音楽会』、『東急ジルバスターコンサート』などの放送演奏により全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い注目を集めている。

公式ウェブサイト <http://www.tpo.or.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/TokyoPhilharmonic>

Twitter <https://twitter.com/tpo1911>

岸 純信 (オペラ研究家)

ロッシーニ：歌劇《セビリアの理髪師》より

序曲(シンフォニア)

「今の歌声は」

「陰口はそよ風のように」

「古典派オペラ」最後の大作ジョアキーノ・ロッシーニ(1792-1868)。イタリアのペーザロに生まれ、喜劇もの(オペラ・ブッファ)でも、シリアスなオペラ(オペラ・セリア)でも人気を得た大作曲家である。

今回は、彼の代表作《セビリアの理髪師》(初演:1816年、ローマ)から3つの名曲をお聴き頂こう。物語は、フランスのボーマルシェの同名戯曲を原作に、青年貴族アルマヴィーヴァ伯爵と中産階級の娘ロジーナの恋を、知恵の回る理髪師フィガロが仲立ちするというもの。モーツァルトの《フィガロの結婚》(1786年、ウィーン)の前日譚である。

それでは、まずは序曲から。当時のイタリア・オペラは序曲をシンフォニア[Sinfonia]と銘打つが、《セビリア》のそれは、ロッシーニの旧作《パルミーラのアウレリアーノ》(1813、ミラノ)のシンフォニアを転用したものである。ローマ皇帝が主役の格調高い《アウレリアーノ》と、市民層の活力漲る《セビリア》に同じシンフォニアが使われた事実は興味深いが、そのきびきびしたリズムと快活な曲調は、今では《セビリア》の代名詞ですらある。

続いては、第1幕でロジーナが歌うカヴァティーナ[Cavatina]〈今の歌声は〉。カヴァティーナとはシンプルな旋律美を誇るアリアを指し、ここでは、才気煥発なロジーナが、幽閉状態を脱して愛する人と結ばれたいと願って歌うもの。前半の毅然とした歌いぶり、後半の敏速なコロラトゥーラが彼女の気丈な心を雄弁に描き出す。

そして、第1幕で音楽教師バジリオが歌うアリア〈陰口はそよ風のように〉。ロジーナの後見人ながら、彼女を妻にと狙う医師バルトロに向かって音楽教師が注進する一曲である。バスの深々とした声音のもと、一筋縄ではゆかないバジリオの面妖さが、メロディから徐々に浮かび上がるさまに注目頂こう。

グノー：歌劇《ロメオとジュリエット》より「ああ、私は夢に生きたい」

フランスの大作作曲家シャルル・グノー(1818-93)が、シェイクスピアの戯曲を忠実にオペラ化した《ロメオとジュリエット》(1867、パリ)。第1幕のこのアリアは、〈ジュリエットのワルツ〉として親しまれる名旋律。ジュリエットが乳母に向かって、十代の娘の夢や希望を華やかに歌い上げる一曲であり、中でも、下降音型を畳みかけて歌うくだりが、娘心のはちきれんばかりの情熱を象徴する。ダムラウならではの華々しさに耳をそばだてて頂きたい。

ヴェルディ：歌劇《ドン・カルロ》より

「ひとり寂しく眠ろう」

バレエ音楽

イタリアの歌劇王ジュゼッペ・ヴェルディ(1813-1901)がパリ・オペラ座で初演した全5幕のフランス語オペラ《ドン・カルロス Don Carlos》(1867)。現在ではイタリア語訳詞で上演されることが多いので、《ドン・カルロ Don Carlo》の訳題で親しまれている。このアリアは第4幕(4幕版の場合は第3幕)でスペイン国王フィリップ2世が憂いを独白する名場面。新しい妻に愛されず、息子の王子カルロスからも造反される権力者の孤独さが、しみじみとした歌いかけの中から色濃く浮かび上がる。フランス人のテストナならではの明晰な発音で、本来の仏語歌詞の繊細さを堪能頂こう。

続いては、劇中第3幕で踊られるバレエ〈ラ・ペレグリーナ〉から、終盤のプレスティッシモとフィナーレを。La Peregrinaとはスペイン王室に縁ある真珠の名。この国の栄耀栄華を象徴する逸品として、この場面の題にも引用されている。指揮者バレフの敏捷な采配ぶりをお楽しみ頂きたい。

ベッリーニ：歌劇《カプレーティとモンテッキ》より「ああ、幾たびか」

シチリア島に生まれ、瑞々しい旋律美を誇ったヴィンチェンツォ・ベッリーニ(1801-35)。彼のオペラでもっとも知られるアリアの一つが、この〈ああ、幾たびか〉である。ヴェローナのロメオとジュリエッタの悲劇を描いた歌劇《カプレーティとモンテッキ》(1830、ヴェネツィア)の第1幕で、恋に胸焦がすジュリエッタが歌うカヴァティーナであり、リリズムに溢れた名旋律である。レガート唱法に秀でたダムラウの渾身の歌いぶりにご期待あれ。

ベッリーニ：歌劇《清教徒》より「おお、愛する叔父さま、私の第二のお父さま」

続いて、ベッリーニの最後のオペラ《清教徒》(1835、パリ)から、第1幕でエルヴィーラが叔父ジョルジョと歌い上げる抒情性豊かな二重唱を。恋人との結婚を父親にとりなしてくれた叔父に感謝し、喜びを分かち合う名場面である。音の様々な連なりを一息で歌い切る声の技と、優美なフレージングをどちらもお楽しみに。

ワーグナー：歌劇《さまよえるオランダ人》より

序曲

「我が子よ、いらっしやいをお言い」

ヴェルディと同年生まれのドイツ人、リヒャルト・ワーグナー(1813-83)。切れ目のない音作りを心掛け、管弦楽と人声を同格に扱うことで壮大な音楽世界を作り上げた大作曲家である。彼の出世作《さまよえるオランダ人》(1843、ドレスデン)は怪奇伝説に基づくオペラ。特定の状況や人物像に結び付く示導動機(ライトモティーフ)の手法を交えて作られた革新的な一作である。その序曲では、神の怒りを受けたオランダ人が昇天できずに海を彷徨う「呪いの動機」、オランダ人の魂が乙女の愛によって救われる「救済の動機」の二つが重要な役割を果たしている。

続いては、第2幕で、乙女ゼンタの父親である船長ダーラントが、オランダ人を客として自宅に連れ帰り、娘に向かって紹介するアリア〈我が子よ、いらっしやいをお言い〉。オランダ人の財宝に魅了され、愛娘を彼に嫁がせようとするダーラントの楽天的な語り口が、客席を一瞬ほっとさせるさまをご想像頂こう。

マスカーニ：歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》より 間奏曲

19世紀末のオペラ界を席卷した荒々しいヴェリズモ(真実主義)の傑作、《カヴァレリア・ルスティカーナ》全1幕(1890、ローマ)。新進時代のピエトロ・マスカーニ(1863-1945)が情熱をこめて書き上げた本作は、シチリア島の片田舎を舞台に、男女の愛憎をリアリスティックな音運びで描いたオペラだが、この間奏曲だけは静謐なる音楽美で貫かれ、後に起こる惨劇とのコントラストを打ち出している。指揮者バレフが「空気を改める響き」をもたらすさまにご注目。

マイヤーベーア：歌劇《ディノーラ》より「軽やかな影」(影の歌)

ベルリンに生まれてパリで大成功し、ヴェルディやグノー、オッフェンバック等に多大な影響を与えたユダヤ系作曲家ジャコモ・マイヤーベーア(1791-1864)。彼がパリのオペラ・コミック座で初演した歌劇《ディノーラ》(1859)は、フランスのブルターニュ地方を舞台とする田園牧歌劇のオペラであり、歌と歌の間にセリフを交えるスタイル(オペラ・コミック様式)で作られている。

今回ダムラウが歌うのは、第3幕のグランテール[Grand Air]〈影の歌〉。この長大なソロは、やむない事情で宝探しの旅に出た男オエルが、婚約中のディノーラを置き去りにしたため、錯乱した彼女が自分の影を親友と思ってあれこれ呼びかけるという、フランス・オペラ版《狂乱の場》である。ソプラノが声の超絶技巧を尽くしながら、端々に哀感も滲ませるという難曲であり、ダムラウの愛らしい歌いぶりから、ヒロインの強い悲しみがどのように浮かび上がってくるか、大いにご期待頂こう。

ポンキエツリ： 歌劇《ジョコンダ》より

バレエ曲＜時の踊り＞
「彼女は死なねばならぬ」

文豪ユゴーの劇作を、作曲家アミルカーレ・ポンキエツリ(1834-86)が巧みな音作りでオペラ化した《ラ・ジョコンダ》(1876、ミラノ)。ヴェルディの一人勝ちであったイタリア・オペラ界に、文字通りの新風を巻き起こした偉大な一作である。

本日まず演奏されるのは、第3幕の有名なバレエ＜時の踊り＞。日本でもテレビで度々使われる人気の一曲だが、ポンキエツリはこの場面を書くにあたり、マイヤーベアーの歌劇《悪魔のロベール》(1831、パリ)から楽想のヒントを得て、管や弦の流麗な音型と打楽器の涼やかな効果を編み出している。

続いては、同じく第3幕の冒頭で、ヴェネツィアの裁判所の長官アルヴィーゼが歌う怒りのアリア＜彼女は死なねばならぬ＞。自分の妻がほかの男と密会したと知ったアルヴィーゼは、「不貞の女は死ぬがよい」と憤り、毒薬を妻に与えるべく決意する。テストの表情豊かな歌いぶりをお楽しみに。

ヴェルディ： 歌劇《椿姫》より「不思議だわ～ああ、そはかの人か～花から花へ」

大作曲家ヴェルディが、同時代の社会リアリズムをまざまざと描いた《椿姫》(1853、ヴェネツィア)。大都会の夜に咲く高級娼婦の愛と死が、強い真実味を帯びて客席を揺さぶる傑作オペラである。本日歌われるのは、主人公ヴィオレッタの第1幕のアリア＜不思議だわ～ああ、そはかの人か～花から花へ＞。まずは心に突然芽生えた愛の想いが、語り口調に近い音型で驚きとして表現され、次に、彼女が自問自答するさまが切々と歌われてから、今度はいきなり「享楽に生きる自分を肯定したい」と叫ぶといった、内面の葛藤ぶりを次々と露わにする劇的な大アリアである。ダムラウの強く輝かしい声音と冴えた喉の技をお楽しみに。

歌詞対訳

G. Rossini:
Il barbiere di Siviglia “Una voce poco fa”

ROSINA

Una voce poco fa
qui nel cor mi risuonò.
Il mio cor ferito è già
e Lindor fu che il piagò.
Sì, Lindoro mio sarà,
lo giurai, la vincerò.

Il tutor ricuserà,
io l'ingegno aguzzerò,
Alla fin s'accheterà,
e contenta io resterò.
Sì, Lindoro mio sarà,
lo giurai, la vincerò.

Io sono docile, son rispettosa,
sono obbediente, dolce, amorosa,
mi lascio reggere,
mi fo guidar.

Ma se mi toccano
dov'è il mio debole,
sarò una vipera, sarò,
e cento trappole
prima di cedere
farò giocare.

G. ロッシーニ：
歌劇《セビーリヤの理髪師》より「今の歌声は」

ロジーナ

今しがた一つの声が
この胸に響いたわ
私の心は、もう傷つきました
リンドーロが傷つけたのよ
ええ、リンドーロは私のものになる
そう誓い、勝ってみせるわ

後見人は反対するでしょう
それなら私は知恵を絞ります
ついには彼も諦め
私は満足するでしょう
ええ、リンドーロは私のものになる
そう誓い、勝ってみせるわ

私は素直で、恭しく
従順で、優しく、愛情深い女
支配されるまま
従います

でも、人が私の弱みに
付け込んできたら
私は蛇になって
たくさんの尻を
降参する前に
仕掛けてやるわ

(訳：水谷彰良)

“La calunnia”

BASILIO

La calunnia è un venticello,
un'auretta assai gentile
che insensibile, sottile,
leggermente, dolcemente,
incomincia a sussurrar.

Piano piano, terra terra,
sottovoce, sibilando,
va scorrendo, va ronzando;
nelle orecchie della gente
s'introduce destramente,
e le teste ed i cervelli
fa stordire e fa gonfiar.

Dalla bocca fuori uscendo
lo schiamazzo va crescendo,
prende forza a poco a poco,
vola già di loco in loco;
sembra il tuono, la tempesta
che nel sen della foresta
va fischiano, brontolando
e ti fa d'orror gelar.

Alla fin trabocca e scoppia,
si propaga, si raddoppia
e produce un'esplosione
come un colpo di cannone,
un tremuoto, un temporale,
un tumulto generale,
che fa l'aria rimbombar.

E il meschino calunniato,
avvilito, calpestato,
sotto il pubblico flagello
per gran sorte a crepar.

C. Gounod:
Roméo et Juliette “Ah! Je veux vivre”

JULIETTE

Ah!
Je veux vivre
Dans ce rêve qui m'enivre;
Ce jour encore,
Douce flamme,
Je te garde dans mon âme
Comme un trésor!
Cette ivresse
De jeunesse
Ne dure, hélas! qu'un jour!
Puis vient l'heure
Où l'on pleure,

Le cœur cède à l'amour,
Et le bonheur fuit sans retour.
Je veux vivre, etc
Loin de l'hiver morose
Laisse-moi sommeiller
Et respirer la rose
Avant de l'effeuiller.
Ah!
Douce flamme,
Reste dans mon âme
Comme un doux trésor
Longtemps encore!

「陰口はそよ風のように」

バジーリオ

中傷はそよ風
とても優しい吐息です
感じ取れぬほど仄かなそれは
軽やかに、穏やかに
ささやき始めます

そっと静かに、地面すれすれに
ひそやかに、ひゅーひゅー音をたてながら
流れ出し、つきまといます
人々の耳の中へと
上手に入り込み
頭と脳を
くらくらさせ、膨らませるのです

口から外に出れば
騒ぎは、どんどん大きくなる
少しずつ勢いを増し
そこらじゅうを飛び回り
森の中で聞こえる
雷や嵐のように
ひゅーひゅー、ゴロゴロと鳴り
あなたを恐怖で凍りつかせるのです

しまいに溢れ出し、破裂し
増殖し、二倍になり
そして爆発を引き起こす
まるで大砲の一撃
地震、嵐
暴動みたいに
大気を轟かせるのです

そして中傷された哀れな男は
恥をかかされ、踏みつけにされ
世間に鞭打たれ
めでたく死んでしまうのです

(訳：水谷彰良)

C. グノー：
歌劇《ロメオとジュリエット》より 「ああ、私は夢に生きたい」

ジュリエット

ああ!
私は私をうっとりさせる夢に
生きたいのです!
この日にもまだ
やさしい炎を
宝物のように
私はあなたを私の胸に見つめております
この若さの
陶酔は
ああ、ただ一日しか続きません!
そのうちに
涙を流すときが来ます

心は恋におぼれ
そして幸福は永久にとび去ります
ああ! 私は生きたいのです
陰気な冬から遠ざかり
私を、私を眠らせて下さい、
そして花びらをむしり取る前に、
薔薇の匂いを息づかせて下さい
ああ!
やさしい愛の炎が
甘い宝物のように
私の胸に残っています
長い間ずっと!

(訳：鈴木松子)

G. Verdi:
Don Carlo “Elle ne m’aime pas!”

PHILIPPE II.

Elle ne m’aime pas! Non!
Son cœur m’est fermé,
Elle ne m’a jamais aimé!
Je la revois encor,
Regardant en silence
Mes cheveux blancs,
Le jour qu’elle arriva de France.
Elle ne m’aime pas!
Où suis-je? Ces flambeaux
Sont consumés.
L’aurore argente ces vitraux,
Voici le jour!
Hélas! Le sommeil salutaire,
Le doux sommeil a fui
Pour jamais ma paupière!
Je dormirai dans mon manteau royal,
Quand sonnera pour moi l’heure dernière,
Je dormirai sous les voûtes de pierre
Des caveaux de l’Escorial!
Ah! Si la Royauté nous donnait le pouvoir
De lire au fond des cœurs où Dieu
Seul peut tout voir!
Ah! Si le Roi dort, la trahison se trame,
On lui ravit sa couronne et sa femme!
Je dormirai dans mon manteau royal,
Quand aura lui pour moi l’heure dernière,
Je dormirai sous les voûtes de pierre
Des caveaux de l’Escorial!
Ah! Si la Royauté nous donnait le pouvoir
De lire au fond des coeurs!
Elle ne m'aime pas! Non!
Son coeur m'est fermé,
Elle ne m'aime pas!

V. Bellini:
I Capuleti e i Montecchi “Oh! quante volte”

GIULIETTA

Oh! quante volte, oh quante
ti chiedo al ciel piangendo!
Con quale ardor t'attendo,
e inganno il mio desir!
Raggio del tuo sembiante
ah! parmi il brillar del giorno:
ah! l'aura che spira intorno
mi sembra un tuo sospir,
ah! l'aura che spira, ecc.

I Puritani
“O amato zio, mio secondo padre”

ELVIRA

O amato zio, mio secondo padre!

GIORGIO

Perchè mesta così? M'abbraccia, Elvira.

ELVIRA

Ah! chiamarmi tua figlia.

G. ヴェルディ：
歌劇《ドン・カルロ》より「ひとり寂しく眠ろう」

フィリップ二世

王妃は わしを愛しておらぬ
彼女の心は 閉じられたまま
一度たりとも わしを愛したことなどない
今もまだ 目に焼きついている
フランスからやって来た あの日
黙ったまま わしの白髪を
見つめていた 彼女の姿が…
王妃は わしを愛しておらぬ
ここはどこだ? 燭台の灯も
燃え尽きたか
夜明けが 窓を銀色に染め
夜が明ける
ああ 癒しの眠り
心地よい眠りは わしの臉から
永遠に去ってしまった
このわしが 国王のマントに包まれて
眠るのは 最期の時が訪れてから
石の丸天上の下 エスコリアル
王家の墓所で 眠るときだけ
ああ 王位に就けば 神のみが知るとい
人の心の奥底を
読めるようになるのなら
ああ 王が眠れば 陰謀が仕組まれて
王冠ばかりか 王妃までもが奪われる
このわしが 国王のマントに包まれて
眠るのは 最期の時が訪れてから
石の丸天上の下 エスコリアル
王家の墓所で 眠るときだけ
ああ 王位に就けば 人の心の奥底を
読めるようになるのなら
王妃は わしを愛しておらぬ
彼女の心は 閉じられたまま
王妃は わしを愛しておらぬ

(訳: 山下賢司)

V. ベッリーニ:
歌劇《カプレーティとモンテッキ》より「ああ、幾たびか」

ジュリエッタ

ああ! もう何度 もう幾度
泣きながら 天にあなたを求めたことでしょう
どれほど焦がれて あなたを待ち
自分の望みに裏切られたことでしょう!
きらめく陽の光が 私には
あなたの顔の輝きのように思われます
ああ! 辺りを吹き過ぎる そよ風が
あなたの溜息のように思われるのです
ああ! 吹き過ぎるそよ風が…

(訳: 井内百合子)

歌劇《清教徒》より
「おお、愛する叔父さま、私の第二のお父さま」

エルヴィーラ

おお 愛する叔父様 私のもう一人のお父様!

ジョルジョ

なぜそのように悲しげに? 私を抱きしめておくれ エルヴィーラ

エルヴィーラ

ああ! どうか娘とお呼びください

GIORGIO

O figlia, o nome
Che la vecchiezza mia consola e alletta,
Pel dolce tempo ch'io ti veglio accanto,
Pel palpitare del mio paterno core
E pel soave pianto
Che in questo giorno d'allegrezza pieno
Piove dal ciglio ad inondarmi il seno ...
O figlia mia diletta,
Oggi sposa sarai!

ELVIRA

Sposa! No, mai!
Sai com'arde in petto mio
Bella fiamma onnipossente;
Sai che puro è il mio desio,
Che innocente è questo core.
Se tremante all'ara innante
Strascinata
Un dì sarò ...
Forsennata -
In quell'istante
Di dolore io morirò!

GIORGIO

Scaccia omai pensier sì nero.

ELVIRA

Morir, sì ... sposa, non mai!

GIORGIO

Che dirai se il cavaliere
Qui vedrai, se tuo sarà?

ELVIRA

Ciel! ripeti, chi verrà?

GIORGIO

Egli stesso ...

ELVIRA

Egli ... Chi?

GIORGIO

Arturo!

ELVIRA

E fia vero?

GIORGIO

O figlia, il giuro!

ELVIRA

Egli? Arturo?

GIORGIO

Arturo.

ELVIRA

O ciel! E fia vero?

GIORGIO

Sì, oh! sì t'allegra, mia buona Elvira,
Ah! sì, t'allegra.

ELVIRA

O gioia! O gioia! O gioia!

ELVIRA, GIORGIO

Non è sogno ...

O Arturo! /O Elvira!

O amor!

GIORGIO

Piangi, o figlia, sul mio seno:
Piangi, ah! piangi di contento.
Ti cancelli ogni tormento
Questa lacrima d'amor.
E tu mira, o Dio pietoso,
L'innocenza in uman velo;
Benedici tu dal cielo
Questo giglio di candor.

ジョルジョ

おお娘よ その呼び名は
わが老いた日々を慰め 喜ばせてくれる
おまえを 傍で見守りながら過ごした幸福な日々にかけて
父としての愛に燃える この心にかけて
そして この喜びに溢れた日に
目から零れて この胸を満たす
優しい涙にかけて…
おお 愛しい娘よ
今日 おまえは花嫁となる!

エルヴィーラ

花嫁ですって! いいえ 決して!
ご存知でしょう この胸に どんなに強く燃えているか
すべてに打ち勝つ美しい炎が…
ご存知でしょう 私の望みが純粹で
この心が清らかであることを
もしも いつか
震えながら 祭壇の前に
引き立てられるなら…
私は 正気を失い…
その瞬間に
苦しみに死ぬでしょう!

ジョルジョ

そんな不吉な考えは 追い払いなさい

エルヴィーラ

ええ 死にます… 花嫁になど 決してなりません!

ジョルジョ

おまえは何と言うかな もし かの騎士が
ここに来て おまえのものになるとしたら…

エルヴィーラ

なんですって! もう一度おっしゃって 誰が ここに?

ジョルジョ

彼 その人だ…

エルヴィーラ

彼? 誰のことなのです?

ジョルジョ

アルトゥーロだ

エルヴィーラ

本当に?

ジョルジョ

おお娘よ 本当だと誓うとも!

エルヴィーラ

彼が? アルトゥーロが?

ジョルジョ

アルトゥーロだ

エルヴィーラ

ああ! 本当に?

ジョルジョ

本当だとも! 喜びなさい 愛しいエルヴィーラ
喜ぶがいい!

エルヴィーラ

おお この喜び!

エルヴィーラ、ジョルジョ

これは夢ではない…

おお アルトゥーロ!／おお エルヴィーラ!

おお 愛よ!

ジョルジョ

私の胸でお泣き 娘よ
ああ! 喜びの涙を流して泣くがいい
この愛の涙が
おまえのすべての苦しみを 拭い去ってくれるように
慈悲深き天よ ご覧ください
この 人の衣をまとった “純真”の化身を
天より 祝福してください
この汚れなき百合を

ELVIRA
Ah! quest'alma, al duolo avvezza,
È sì vinta dal gioire,
Che ormai non può capir
Sì gran dolcezza!
Chi mosse a' miei desir
Il genitor?

GIORGIO
Ascolta.
Sorgea la notte folta,
Tacea la terra e il cielo,
Parea natura avvolta,
Avvotla in mesto vel.
L'ora propizia ai miseri,
Il tuo pregar, tue lacrime,
M'avvalorar sì l'anima
Che volo al genitor.

ELVIRA
Oh! mio consolator!

GIORGIO
Io cominciai: "Germano",
Ne più potei parlar;
Allor bagnai sua mano
D'un muto lagrimar.
Poi ripigliai tra gemiti:
"L'angelica tua Elvira
Pel prode Artur sospira;
Se ad altre nozze andrà ...
Misera, perirà!"

ELVIRA
O angiol di pietà
Sceso dal ciel per me!
E il padre?

GIORGIO
Ognor tacea ...

ELVIRA
E poi?

GIORGIO
Ei dicea: "Riccardo
Chiese e ottenea mia fede ...
Ei la mia figlia avrà!"

ELVIRA
Ciel! Solo a udirti io palpito!
E tu?

GIORGIO
"La figlia misera",
Io ripetea, "morrà!"
"Ah, viva!" ei mi dicea,
E stringemi al cor.
"Sia Elvira felice,
Sia lieta d'amor."

ELVIRA
Odi ... qual suon si desta?

GIORGIO
Ascoltiam!
È il segnal di gente d'arme.

SOLDATI
Vieni il prode e nobil conte.

GIORGIO
Senti?

ELVIRA
Taci.

SOLDATI
Arturo Talbo!

GIORGIO
Ah! non tel dissì?

ELVIRA
Ah, non resisto!

エルヴィーラ
ああ! 苦悩に慣れたこの心は
喜びに圧倒されて
これほどに大きな喜びを
信じることができません
誰が 父を動かしてくださったのでしょう
私の望みのために?

ジョルジョ
お聞き
闇夜だった
大地も天も 静まりかえり
自然は 憂愁のヴェールに
覆われたかのようなだった
不幸な者たちのための時間だ
おまへの祈り おまへの涙が
私の心を 奮い立たせて
おまへの父親の許へ駆けつけさせたのだ

エルヴィーラ
おお 私の心の慰めである叔父様!

ジョルジョ
『兄上』私は話し始めたが
それ以上 続けられなかった
それで私は 言葉も無く
兄の手を涙で濡らした
そして嘆きのうちに また訴えた
『あなたの娘 天使のようなエルヴィーラは
勇者アルトゥーロに恋焦がれています
もし他の者と結婚させられるなら…
哀れなあの子は死んでしまうでしょう!』

エルヴィーラ
私のために天から降りてきてくださった
慈悲の天使であられる叔父様!
それで お父様は?

ジョルジョ
沈黙を守っていた…

エルヴィーラ
そして?

ジョルジョ
こう言った 『リッカルドが
それを望み 私の約束を得た…
彼が わが娘を得るだろう!』

エルヴィーラ
神様! お話を聞くだけで身が震えます
そして 叔父様は?

ジョルジョ
『哀れな あの子は…』
私は繰り返した 『死んでしまうでしょう!』
『ああ 駄目だ 生きなくては!』 兄は そう言って
私を その胸に抱きしめた
『エルヴィーラは 愛に満たされて
幸せになるのだ』

エルヴィーラ
お聞きになって… あの音は?

ジョルジョ
聞いてみよう
衛兵たちの合図だ

衛兵たち
勇敢にして高貴なる伯爵閣下のお着き!

ジョルジョ
聞いたかね?

エルヴィーラ
黙って…

衛兵たち
アルトゥーロ・タルボ様!

ジョルジョ
言った通りだろう?

エルヴィーラ
ああ 喜びにもう耐えられません!

GIORGIO
Deh! ti calma!

SOLDATI
Cavalier!

ELVIRA
Ah! padre mio!

SOLDATI
Lord Arturo varchi in ponte.
Fate campo al pro' guerriero.

ELVIRA
A quel nome, al mio contento,
Al mio core io credo appena.
Tanta gioia, o Dio, pavento,
Non ho lena a sostener!

GIORGIO
A quel suono, al nome amato,
Al tuo core or presta fede!
Questo giorno venturato
D'ogni gioia sia forier.

SOLDATI, CASTELLANI, CASTELLANE
Ad Arturo de' cavalier
In giostra e amore
Le donzelle ed i guerrieri
Fanno festa e fanno onor.

ELVIRA
Senti?

GIORGIO
Sei paga?

ELVIRA
Appieno.

GIORGIO
Le grida ascolta di gioia e onore.

ELVIRA
Gli fanno onor!
Lo senti?
A quel nome, al mio contento, ecc.

GIORGIO
A quel suono, al nome amato, ecc.

R. Wagner : Der fliegende Holländer
“Mögst Du, mein Kind”

DALAND
Mögst du, mein Kind, den fremden Mann
willkommen heissen?
Seemann ist er, gleich mir,
das Gastrecht spricht er an.
Lang' ohne Heimat,
stets auf fernen, weiten Reisen,
in fremden Landen er
der Schätze viel gewann.
Aus seinem Vaterland verwiesen,
für einen Herd er reichlich lohnt:
sprich, Senta, würd' es dich verdriesen,
wenn dieser Fremde bei uns wohnt?

Mögst du, mein Kind,
dem Manne freundlich dich erweisen!
Von deinem Herzen auch
spricht holde Gab' er an;
Reich' ihm die Hand, denn Bräutigam
sollst du ihn heissen:
stimmst du der Vater bei,
ist morgen er dein Mann.
Sieh dieses Band, sieh diese Spangen!
Was er besitzt, macht dies gering.
Muss, teures Kind, dich's nicht verlangen?
Dein ist es, wechselst du den Ring.

ジョルジョ
心を鎮めなさい!

衛兵たち
騎士殿!

エルヴィーラ
ああ お父様!

衛兵たち
アルトゥーロ卿に橋を下ろせ
勇敢な戦士に道を開けよ

エルヴィーラ
あのお名前 この喜び
自分の心を 信じられぬほどです
あまりに大きな喜びに おお神様 私はすくみ
耐える力がありません!

ジョルジョ
あの声を 愛する名前を
おまへの心を 今や 信じるがいい
この幸福な日が
あらゆる喜びの先触れとならんことを!

衛兵たち、城内の男女たち
馬上 試合においても 愛においても
騎士アルトゥーロに
乙女たちと戦士たちは
喝采を送り その栄光を称える

エルヴィーラ
お聞きになって?

ジョルジョ
満足したかね?

エルヴィーラ
これ以上ないほどに!

ジョルジョ
あの 喜びと栄光の歓声を聞くがいい

エルヴィーラ
皆が 彼を称えている!
お聞きになって?
あのお名前 この喜び…

ジョルジョ
あの声を 愛する名前を…

(訳:井内百合子)

R. ワーグナー : 歌劇《さまよえるオランダ人》より
「我が子よ、いらっしやいをお言い」

ダーラント

いいかい、我が子よ、
このよそ者の男を歓待してくれるか?
このお方は船乗りだ、俺と同じだ
客として迎えてほしいとおっしゃっている
長いこと故郷もなく、
絶えず遠くはるかな旅をなさり、
よその国々でたくさんの財宝を
手に入れられた
祖国を追われた身で、
宿が得られるなら充分に謝礼をくださる:
言っておくれ、ゼンタ、お前は嫌だろうか、
このよそのお方が我が家に泊まったら?

いいかい、我が子よ、
この男の方に親切にしてあげるのだ!
お前の心からの
優しさを求めておいでだ;
このお方に手を差し伸べなさい、というのも花婿と
お前はこのお方を呼ぶことになるのだから、
父親に同意するなら、
明日にもこのお方はお前の夫だ
このリボンを見ろ、この髪留めを見ろ!
このお方がお持ちのもののうち、これはほんの僅かにすぎない
いという我が子よ、欲しくならないか?
お前のものだぞ、指輪を交換すればな

Doch keines spricht . . .
Sollt' ich hier lästig sein?
So ist's! Am besten lass' ich sie allein.
Mögst du den edlen Mann gewinnen!
Glaub' mir, soch' Glück wird immer neu.

Bleibt hier allein!
Ich geh' von hinnen.
Glaubt mir, wie schön, so ist sie treu!

**G. Meyerbeer :
Dinorah ou Le pardon de Ploërmel “Ombre légère”**

DINORAH

Ombre légère
Qui suis mes pas,
Ne t’en va pas!
Fée ou chimère,
Qui m’es si chère
Ne t’en va pas!
Courons ensemble,
J’ai peur, je tremble
Quand tu t’en vas
Loin de moi!
Ah, ne t’en va pas!
A chaque auore
Je te revois;
Ah! Reste encore,
Danse à ma voix!
Pour te séduire,
Je viens sourire,
Je veux chanter!
Approche-toi!
Viens, réponds moi,
Chante avec moi!
Ah! Réponds, ah c’est bien! ...

Sais-tu bien qu’Hoël m’aime,
Et qu’aujourd’hui même
Dieu va pour toujours,
Bénir nos amours!
Le sais-tu?
Mais tu prends la fuite!
Pourquoi me quitter?
Quand ma voix t’invite,
Pourquoi me quitter?
La nuit m’environne!
Je suis seule, hélas!
Ah! Reviens, sois bonne!
Ah! C’est elle!
Ah! Méchante, est-ce moi qui l’on fuit? ...

Ah! Danse! Reste avec moi!

**A. Ponchielli :
La Gioconda “Sì, morir ella de' !”
ALVISE BADOERO**

Sì, morir ella dè! Sul nome mio
Scritta l’infamia impunemente avrà?
Chi un Badoèr tradi
Non può sperar pietà! ...
Se ier non la ghermì
Nell’isola fatal questa mia mano,
L’espiazion non fia tremenda meno!
Ieri un pugnàl le avria squarciato il seno;
Oggi ... un ferro non è, sarà un veleno!
Là turbini e farnetichi
La gaia baraonda,
Dell’agonia col gemito

やはりどちらも口をきかないか…
俺がここにいるのがまずいのか?
そうか! 二人きりにするのが一番だ
この高貴な男を自分のものにするのだぞ!
俺の言うことを信じろ、こんな幸運はまたとない

ここで二人きりにおなりください!
私はここから消えます
私の言うことを信じてください、娘は美しいですが貞節でもあります!
(訳:岩下久美子)

**G. マイヤーペーア:
歌劇《ディノーラ》より 「軽やかな影」(影の歌)**

ディノーラ

軽やかな影は
いつも私の後をついて来る
逃げては駄目よ!
妖精もキマイラも
私の大切なお友達
逃げては駄目よ!
一緒に走りましょう
怖くて震えてしまうわ
あなたが私から
離れていったら
ああ、逃げては駄目よ!
夜が明ける度に
会いましょうね!
ああ、もっとここにいて
私の歌に合わせて踊って頂戴
あなたを引きとめるため
私は微笑みを浮かべて
歌ってあげるわ
もっとこっちへいらっしゃい
さあ、応えて頂戴
私と一緒に歌ってよ!
ああ、応えて頂戴
ああ、それでいいわ

知ってる？ オエルは私を愛してるのよ
だから今日ね
神様が永遠に
私たちの愛を祝福してくださるの
知ってる？
行ってしまうの？
なぜ私から離れていくの？
私が話しかけているのに
なぜ私から離れていくの？
夜が私を取り囲む
私はひとりぼっち　ああ!
ああ!　戻ってきていい子だから!
ああ!　彼女だわ!
ああ!　意地悪ね
なぜ私から逃げるの？

ああ!　踊って!　私と一緒にいて頂戴!
(訳:山下賢司)

**A. ボンキエツリ:
歌劇《ラ・ジョコンダ》より 「彼女は死なねばならぬ」**

アルヴィーゼ・バドエーロ

そうだ 彼女は死なねばならぬ！　わが名の上に
復讐されぬままの恥辱が　記されるのか？
バドエーロ家の人間を裏切った者は
慈悲を求めることは出来ぬのだ！
あの運命の島で　昨日 彼女を
この手で捕えなかったからといって
罪の償いが　軽くなりはしないぞ
昨日ならば　剣が彼女の胸を引き裂いたことだろう
今日は…　剣ではなく 毒薬だ！
あちらでは　人々と歓声が渦を巻き
楽しい喧騒に溢れている
断末魔の呻き声も

La festa si confonda! ...
Ombre di mia prosàpia,
Non arrossite ancora!
Tutto la morte vendica,
Anche il tradito onor!
Colà farnetichi ...
Là del patrizio veneto
S'adempia al largo invito,
Quivi il feral marito
Provveda al proprio onor!
Fremete, o danze, o cantici,
È una infedel che muor!

**G.Verdi : La Traviata
“È strano... ah, fors’ è lui...sempre libera”**

VIOLETTA

È strano! è strano! in core
Scolpiti ho quegli accenti!
Saria per me sventura un serio amore?
Che risolvi, o turbata anima mia?
Null'uomo ancora t'accendeva o gioia
Ch'io non conobbi, essere amata amando!
E sdegnarla poss'io
Per l'aride follie del viver mio?

Ah, fors'è lui che l'anima
Solinga ne' tumulti
Godea sovente pingere
De' suoi colori occulti!
Lui che modesto e vigile
All'egre soglie ascese,
E nuova febbre accese,
Destandomi all'amor.
A quell'amor ch'è palpito
Dell'universo intero,
Misterioso, altero,
Croce e delizia al cor.

A me fanciulla, un candido
E trepido desire
Questi effigiò dolcissimo
Signor dell'avvenire,
Quando ne' cieli il raggio
Di sua beltà vedea,
E tutta me pascea
Di quel divino error.
Sentia che amore è palpito
Dell'universo intero,
Misterioso, altero,
Croce e delizia al cor!

Follie! follie delirio vano è questo!
Povera donna, sola
Abbandonata in questo
Popoloso deserto
Che appellano Parigi,
Che spero or più?
Che far degg'io?
Gioire,
Di voluttà nei vortici perire.
Gioir! ... gioir!

Sempre libera degg'io
Folleggiar di gioia in gioia,
Vo' che scorra il viver mio
Pei sentieri del piacer,
Nasca il giorno, o il giorno muoia,
Sempre lieta ne' ritrovi
A diletti sempre nuovi
Dee volare il mio pensier.

宴の歓声に　紛れるがいい
わが祖先の霊たちよ
まだ　恥じ入ってくれるな
死が　すべての復讐を果たさんことを
裏切られた名誉の復讐を！
あちらでは　歓声が…
あちらでは　ヴェネツィアの貴族が
寛大な宴の主人役を務め
ここでは　傷つけられた夫が
自身の名誉のために行動するのだ
踊りと歌に熱狂し　震えるがいい
不実な女は死ぬのだ！

(訳:井内百合子)

**G.ヴェルディ : 歌劇《椿姫》より
「不思議だわ～ああ、そはかの人か～花から花へ」**

ヴィオレッタ

不思議だわ! 不思議だわ! この心に
あの言葉が刻みこまれてしまった!
真実の愛など私には災いではないのかしら?
どうしようというの 乱れた私の心よ?
どんな男もおまえを燃え上がらせはしなかったのに
おお　私が知らなかった愛し愛される喜び!
その喜びを捨てられるの?
私の生活の　不毛で馬鹿げたお遊びのために？

ああ　きっと彼なのだわ
喧噪の中で孤独だった　私の魂が
密やかな彩りで　いくたびか
心に描いていた人は!
控えめで心優しい彼は
病める私の部屋を訪れ
新たな熱を燃え上がらせて
私を愛に目覚めさせた
全宇宙の
鼓動である愛に
神秘的で崇高な
心にとっては苦悩もあり　歓喜でもある愛に…

純粹で心震える憧れが
少女だった私に描き出していた
いつか会う恋人の
この上もなく優しい面影を
彼の美しさの光が
天に輝くのを見た時
その神々しい幻に
私のすべてが満たされたわ
感じていたわ
愛は全宇宙の鼓動であると
神秘的で崇高な愛は　心にとっては
苦悩もあり　歓喜でもあるのだと…

馬鹿なこと! 愚かなことだわ! くだらない妄想よ!
哀れな女　たった一人で
見捨てられた女
バリと呼ばれる
この人に溢れた砂漠で
これ以上何を望むの？
どうすればいいの？
楽しむのよ!
歓楽の渦の中で　この身を滅ぼすの!
楽しむのよ!

私はいつも自由に　快楽から快楽へと
身を任せ　溺れていなければならないの
私の人生が　いつも
歓びの道を飛び過ぎていけばいい
明けても暮れても
宴の中で　幸せに
私の思いはいつも新たな歓びを求めて
飛んでいかなければならないの

(訳:井内百合子)